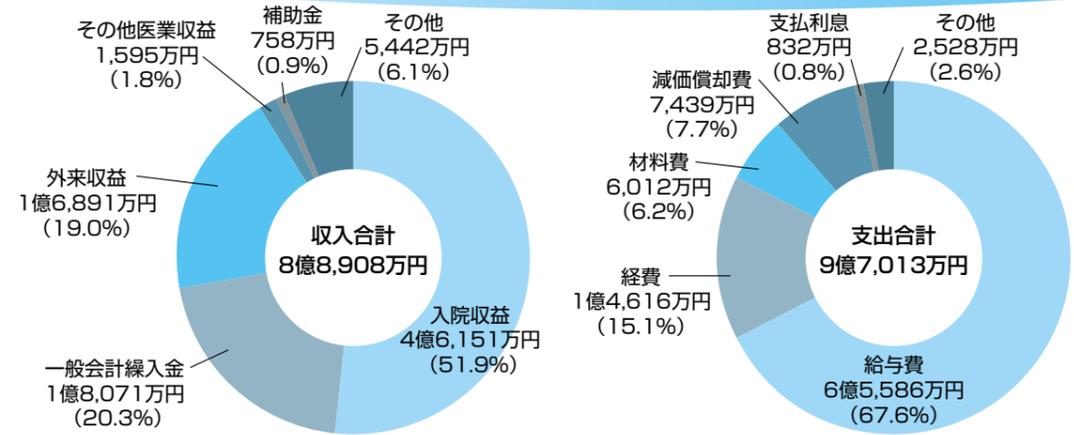


町立病院からのお知らせ

平成27年度
和水町病院事業会計決算

平成27年度の概況



平成27年度は、経営形態を地方公営企業法の一部適用から全部適用へ移行して3年目の決算となります。

まず、収入では、3階病棟の一般病床数を56床から49床に減らし、10床を、在宅復帰を目的とした「地域包括ケア病床」とする診療体制の見直しを行い、収入増を図りました。

次に、費用では、診療材料の無在庫化、購入単価の削減、職員のコスト意識の向上、診療報酬請求漏れの防止等を図るためにSPD業務(診療材料物流管理)を導入し、経営の効率化を行いました。また、良質な医療を提供するための医療技術員や病院経営ノウハウを持った事務職員を育成するために新たに職員を採用しました。しかし、地方公営企業法の全部適用に伴う職員体制の移行時期と重なって、医業収益に占める職員給与の比率を示す職員給与比率は前年度から増加し、今後、給与費の適正化を図る必要があります。

これらの結果、平成27年度の決算は、収入が8億8,908万円、支出が

9億7,013万円となり、8,105万円の赤字となりました。

患者数などの状況

平成27年度の入院患者数は延べ23,637人、前年度と比較し、894人の減少となり、病床利用率は66.9%となりました。外来患者数は延べ26,372人で、前年度と比較し1,059人の減少となりました。

また、夜間休日の救急患者の受け入れ人数は1,744人(前年度1,712人)であり、うち救急車搬送人数は183人(163人)でした。

なお、健康管理センターでの健診受診者延数は2,720人(前年度2,343人)、居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数は1,729件(前年度1,703件)、訪問看護ステーションの利用者数は433人(前年度400人)、延訪問回数は2,060回(前年度2,040回)となっています。

平成28年度は、これまでの経営の効率化等に加えて、県が策定する地域医療構想を踏まえ当院の役割を明確化した「新公立病院改革プラン」を策定し、医療の質を確保しながら

ら、さらなる経営の改革に取り組みていきます。

■ 平成26年度との比較	平成26年度	平成27年度
患者数	入院 24,531人(一日平均67.2人)	23,637人(一日平均64.6人)
	外来 27,431人(一日平均112.4人)	26,372人(一日平均108.5人)
診療単価(患者1人・1日当たり)	入院 19,341円	19,525円
	外来 6,176円	6,405円
病床利用率	68.6%	66.9%
平均在院日数	19日	20日

■ 改革プランの実績	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	目標値
経常収支比率	97.0	102.3	104.7	104.5	98.8	98.7	100.8	97.2	91.6	100以上
職員給与比率	67.9	65.0	69.0	68.2	71.4	69.4	68.0	73.1	78.2	65以下
病床利用率(一般)	63.2	57.4	54.6	51.6	51.8	50.9	52.5	53.0	54.3	70以上
病床利用率(療養)	81.6	90.4	93.4	90.7	88.2	81.6	86.2	89.3	83.4	

注)目標値は、平成25年度までの目標値となっており、新たに平成32年度までの期間を対象とした新公立病院改革プランを平成28年度に策定することとしています。

■ 用語の説明
 経常収支比率……経常的な経営活動に伴う収益から費用を差し引いたもの。この数値が100%を超える場合は経常黒字、100%未満であれば、経常赤字を示す。(経常収益/経常費用)×100
 職員給与比率……病院の職員数などが適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営のポイントとなる。(職員給与費/医業収益)×100
 病床利用率……病院の施設が有効に活用されているかどうかを判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合は、病床規模が適切か否かを検討する必要がある。(年延入院患者数/年延病床数)×100

歴史調査の楽しみ方

江栗城跡

36

大田 幸博

(元・菊水町史編纂委員会副委員長)

まだ、余震があります。いつになったら、終息するのでしょうか。蒸し風呂の山中は、お盆を過ぎますと、少し、秋の気配が感じられるようになりました。季節の移り変わりは、早いものです。

先月号で、城尾地区の北東側斜面と書きましたが、北側斜面に改めます。

堀切の北東側谷部・造成地(高低差)

63から64・66・67・71は、高低差のある(4・02×2・50m)大型造成地が連なっています。造成の度合が高く、法面は、何れも削り出されて急峻です。登り降りにも困難を伴います。

堀切から、そのまま豎堀状に変化して下っており、城尾地区・北側の守りをより一層堅固なものにしています。堀切の西側は、谷部が、北東側から南西側の下っており、谷の側面にあたります。そのため、防禦面やや劣ります。

69は、71の西側肩部で、高低差1.9m、長軸の向きが南北方向にあります。両者は、セツト関係にあると思われます。

北側斜面・直下造成地と上域(高低差)

元々、急斜面部を、さらに削り出して、大きな崖線が形成されています。5と68の高低差は、6.32m。城尾地区の

縁部を守る強力な防衛ラインです。73は、3と68の間にあります。長さ6.0m、幅4.4mの小型傾斜区画です。上段の3とは4.59m、下段の68とは2.90mの高低差があります。用途不明で、崩壊地形とは思えません。

北側斜面・造成地(高低差)

前出の崖線下に、大規模造りの造成地68・74が並列しており、こども、法面は、急峻に削り出されています。この地区は、城尾地区・斜面の張り出し部分にあたります。長さのある帯状地形が特徴です。

70は、細帯状造成地で、形状から通路と思われます。崩壊しており、西側の谷部造成地に残存地形が残っています。上下斜面は、削り出されています。

76は、75の下段にあります。この地区の再下位の地形で、上段とは、高低差1.47mに留まります。形状的には、犬走りのものです。

77は、登城道の一部です。76と2.1mの高低差があり、肩部に土塁が残っています。緑下は、絶壁になります。登城道は、下位で、降雨時に水の流れる谷底道に繋がり、上位で、城尾地区の東縁を横断する登城道に繋がると思われます。

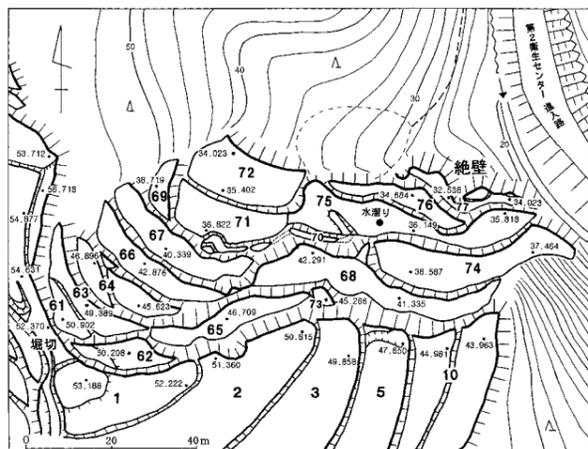
75の中間に、直径1m程の範囲で、水溜まりがあります。気になりましたので、図面中に、その場所を「●」で示しました。小規模な貯水池の可能性ががあります。

①堀切の北東側谷部・造成地		②北側斜面・造成地		④今回・調査区		
比較段	高低差(m)	比較段	高低差(m)	区画	全長(m)	幅(m)
64-63	-2.50~-3.77	68-65	-4.42	66	43.0	6.0~1.0
66-64	-4.02~-2.75	74-68	-2.75	67	39.0	6.5~3.0
67-66	-2.54	75-74	-2.44	69	14.4	4.4
71-67	-3.52	76-75	-1.47	70	11.0	1.0
72-71	-1.42	77-76	-2.15	71	26.0	9.2
				72	24.6	13.4
				73	6.0	4.4
				74	44.4	9.0~5.2
				75	58.6	11.0~2.0
				76	33.0	5.5
				77	-	1.6

③北側斜面・造成地と上域	
比較段	高低差(m)
65-2	-4.65
73-3	-4.63
68-5	-6.32
68-10	-3.65~-2.63



江栗城跡 堀切周辺図



城尾地区北側斜面図